

# ぼちぼちいこか

学校だより 2月号

2026.1.30 発行



教育理念  
生きる喜びを抱き  
自ら学びを拓く



## 日本の文化再発見

校長 大谷 京司

1月は、日本の文化を改めて体験を通して知る月となりました。書初めから始まり、どんど焼き・餅つき、親子ふれあいたこあげ大会、相模里神楽、相模国飯山白龍太鼓、そして、1月末には力士を招いての「どすこい大相撲七沢場所」と本当に盛沢山でした。

頭ではわかっているつもりですが、体験してみるとその奥深さや意義が実感としてわかり、これからも大事にしていきたいという気持ちに変わっていきます。子どもたちの心に日本文化の良さや楽しさが膨らみ、伝統の担い手として受け継いでいってほしいと思います。



### ～どんど焼き・餅つき～

どんど焼きでは、書初めが炎に包まれ舞い上がると歓声が沸き、手を合わせる子の姿も。

餅つきのトップバッターは6年生。

下級生に見守られ、大きな掛け声とともに力強くつくことができました。



### ●親子ふれあいたこあげ大会

相模川三川合流地点で今年も手作り和風の凧揚げ大会。

風があまりない中でしたが、上手に操り、かなり高くまで揚げた子もいました。



### ◆書初め

新学期始まって翌日、子どもたちは自分で決めた四字熟語を書いています。それぞれに込められた思いを文字として表現する中で、自分の気持ちを整理し、新たな1年を頑張っていこうという決意を感じました。芸術祭で展示をいたします。



## 相模里神楽



厚木市郷土芸能普及公演の1つとして、相模里神楽垣澤社中の皆様に来校していただき、獅子舞や大黒様の踊りなどを見せていただきました。

獅子が上手にみかんを食べて皮だけを出す場面では、どうやって食べたのか子どもたちも興味津々でした。また、獅子に頭を噛んでもらうと縁起が良いとのことから、子どもたちは頭を差し出し、次々に噛んでもらっていました。



体験としては、手踊りワークショップということ

で、扇を一人一本手にしてしなやかな舞いを教えていただき実際に演じてみました。

最後に子どもたちの質問に答えて、大黒様の踊りを披露して下さった方がステージに登場してくれましたが、とても小柄な女性の方でみんな少しびっくりしていました。どうして神楽を始めようと思ったのかという質問に対して、お面や衣装でいろいろな役になり演技をすることができるのが楽しいからですと神楽の魅力を語ってくれました。



## 相模国飯山白龍太鼓

学校にある太鼓と音が違う。響きがいい。そんな感想が最後のあいさつで子どもから聞こえました。太鼓の重さがずっしりとしており、確かに迫力ある響きでした。

相模国飯山白龍太鼓保存会の皆様による演奏披露並びに体験では、そのパフォーマンスの格好良さや太鼓のリズムと響きにすっかり子どもたちは魅了されているようでした。

何回かリズムや叩き方の練習をした後、松・竹・梅それぞれの縦割りグループで発表を行いました。高学年は、途中違うリズムで曲に変化をつけ、さらに威勢のよい合いの手も入れながら、各グループとも堂々と発表ができ、保存会の皆さんからもこれだけの練習でここまでできるのは素晴らしいとお褒めの言葉をいただきました。



## みんなで創る桜庭計画 キックオフ

1月24日(土)、エスポワール家庭教育学級の企画で、NPO 法人 仵(ろく)の根本秀嗣氏をお迎えして、学園が新たに手に入れた土地の活用についての話し合いと作業が行われました。子どもたち・保護者・教職員みんなで楽しみながら創っていきましょうという第一歩となりました。

## 芸術祭(2/14土)に向けて

今年の子どものグループごとのテーマブースは「日本」「世界」「未来」の3つです。

日本と世界が関係していて未来を考える上で欠かせないのが過去の歴史、中でも平和と対極にある戦争と考えました。

エンディングでは、1945年3月10日の東京大空襲を経験した辻里子さんをお迎えしてお話をいただくほか、彫刻家として知られる息子の忍さんから未来の希望につながる作品をご紹介します。

